Super Taikyu
JapaneseEnduranceRace

BRIDGESTONE ENEOS

MEDIA RELEASE

2026 年 11 月 22 日

Team Noah

マッハ車検 PMU RACING PADS PETRONAS Syntium

GR Garage 熊本中央 GT2 SUPER COOLING SYSTEM

ホテル エーゼット HOTEL AZ FŪGA 風雅

AUTO STAFF Racing Parts Development

SWC Freedom Engineering Innovation

悪天候のためにレースは 2 周で終了
シリーズ 9 位で今季を無事終える





Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、11 月 14～15 日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 第 7 戦(最終戦)「S 耐 FINAL」に 4 名のドライバーで参戦。4 時間の決勝レースは悪天候のためセーフティカー(SC)先導によりスタートしたが、2 周完了の時点で打ち切られ、クラス 9 位。シリーズ 9 位で今季を終えた。

今回は前戦に続き A ドライバーに下垣和也、エースの冨田自然(あるが)、大分県出身の森田真心(こころ)、福岡県在住の永原蒼翔(あおと)というレギュラーの 4 名で 4 時間レースに臨んだ。このレースには全 11 クラス、富士スピードウェイのフルグリッドとなる 68 台がエントリー。ST-Z クラスには、国内外の GT4 マシン 5 車種計 12 台がエントリーした。

13日の専有走行から、フリー走行が行われた14日午前までは青空が広がっていたが、午後には雲が増え富士山にも笠雲が掛かり天候は下り坂に。気温16℃、路面温度19℃の14時15分に公式予選がスタートした。A、Bドライバーのベストタイム合算で決勝のスターティンググリッドが決まる。まずジェントルマンドライバーのAドライバー予選では、下垣が1分48秒581をマークしクラス9位につけた。続くBドライバー予選では冨田が1分47秒081でクラス8位。2人のタイム合算はクラス9位総合19位となった。今回Cドライバー予選は行われなかったが、森田と永原は朝のフリー走行でコースコンディションの確認を済ませた。

決勝日の15日は未明から雨が降り、朝のコースは完全なウェットコンディション。サポートレースのS耐チャレンジは行われたが、スピン＆クラッシュする車両もあり危険な状態だった。決勝レースを控えた11時25分に各車両がコースインしグリッドウォークが行われたが、徐々に雨量は増していった。

12時30分、SC先導により4時間の決勝レースがスタートしたが、雨量は一向に減る様子はない。スタートから13分が経過しSCラン3周が完了した時点で、雨量増加による悪天候のために赤旗が提示されレースは中断となり各車両がピットイン。レースは2周を終えた時点で成立(得点はハーフポイント)となった。スタートを担当した下垣はSCランのために前の車両を抜くことができず、9位のままフィニッシュ。エントリーしたレース5戦連続で完走を果たし、シリーズ9位で今季を無事に終えることができた。

下垣和也「ウェットコンディションのレースであれば、私たちにも順位を上げるチャンスはあったと思います。しかしあれほどの量の雨ではストレートではクルマが浮いてしまうと思うぐらい危険すぎました。大きな事故が起きる前にレースを中断したのは正解だと思います。今年は GT4 スープラのことを少しずつつかんで来たこともあり、こうしたら速く走れるようになったと前向きに考えられるようになった一年になりましたし、レベルアップのできた一年でした。応援ありがとうございました」

冨田自然「雨も想定してセットアップできていたので、ウェットでも走りたかったです。予選ではいろいろな要因でセットアップしきれなかったのですが、それを元に雨に向けみんなでミーティングを重ね準備をしていただけに走れなかったのは残念です。こういう経験は初めてで悔しいですが、これまで培って来たデータは今後も生きて来ると思います。これらをもっと活用してアップグレードする必要があると思います。チームのポテンシャルは十分にあると思うので、来季は優勝したいです」

森田真心「今回は晴れでも雨でも上位に行けるという自信のあったレースだっただけに、2 周で終わったのは残念です。今年は悔しいレースが多かったです。良い部分をうまく使えることができれば、結果も残せたと思います。接触やアクシデントもありましたしタイムは良いのに結果につながらなかったという点は大いに反省すべき点だと思います。今年は 3 年目のシーズンなのにチームに結果で返すことができなかったと申し訳ない気持ちですが、今後につなげていきたいです」

永原蒼翔「決勝レースでは乗りたかったですね。練習走行の段階からクルマの動かし方を研究して良い走りができるようになったと思っていたので、このコンディションでレースが終わってしまったことは悔しいです。そして来年もまた乗れたらいいなと思います。これまではフォーミュラだけでハコ車の経験がなかったので、勉強になったシーズンでしたし良い経験ができた一年になりました。こういうチャンスをいただき、応援もしていただきありがとうございました」